

平成26年度おすすめ 人権教育・啓発用ビデオの紹介

ヒーロー (34分)

企画：兵庫県

近年、社会問題となっている「無縁社会」と呼ばれる状況に対し、私たちは何ができるのでしょうか。

主人公の行男は、あるきっかけから地域と関わるようになり、近所の高齢者や家族と出会っていきま

す。
傍観者としてではなく、主体的に行動していくことで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを感じていただける作品です。



あなたの偏見、わたしの差別 (30分)

人権という言葉はよく耳にしますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないのでしょうか。

この作品では、ある4人の若者たちの体験と議論を手がかりに、DV(ドメスティック・バイオレンス)や自死などの4つの問題について考えていきます。



マザーズハンド (19分)

学校の授業で母親の仕事について作文を書くことになった愛理(小6)は母親の職業に対して、恥ずかしさを感じていました…。

ある家庭の姿から身近にある偏見や差別に目を向け、誰もが幸福に生きていく権利を持っていることを考える作品です。



家庭の中の人権 生まれ来る子へ (25分)

「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話をとおして、私たちの身の回りにある育児や介護などの人権課題が取り上げられています。

家庭の中で人権の尊さについて語り合い、伝えていくことは、すべての『いのち』を大切にすることでもあります。そのことに気づき、行動することの大切さが描かれています。



ひとみ輝くとき (35分)

『いじめ』は命にかかわる問題です。子どもの世界で起きているいじめや虐待の問題を大人も自分に関わりのあることとしてとらえ、子どもを家庭・学校・地域が協力し合って支えていくことを願って作成されています。



やさしいオオカミ (15分)

悪の代表・暴力の代名詞にされているオオカミ。

実は、やさしい心を持ち本当の強さを持っていたのです。いじめられ続けた気弱なオオカミが見せたやさしさ… 本当の強さとは何かを考える作品です。

